

# 開成学園排球部OB会

会 報 第6号

昭和60年4月

開成バレー部OB会会員各位

昭和60年7月

OB会会長進藤定夫

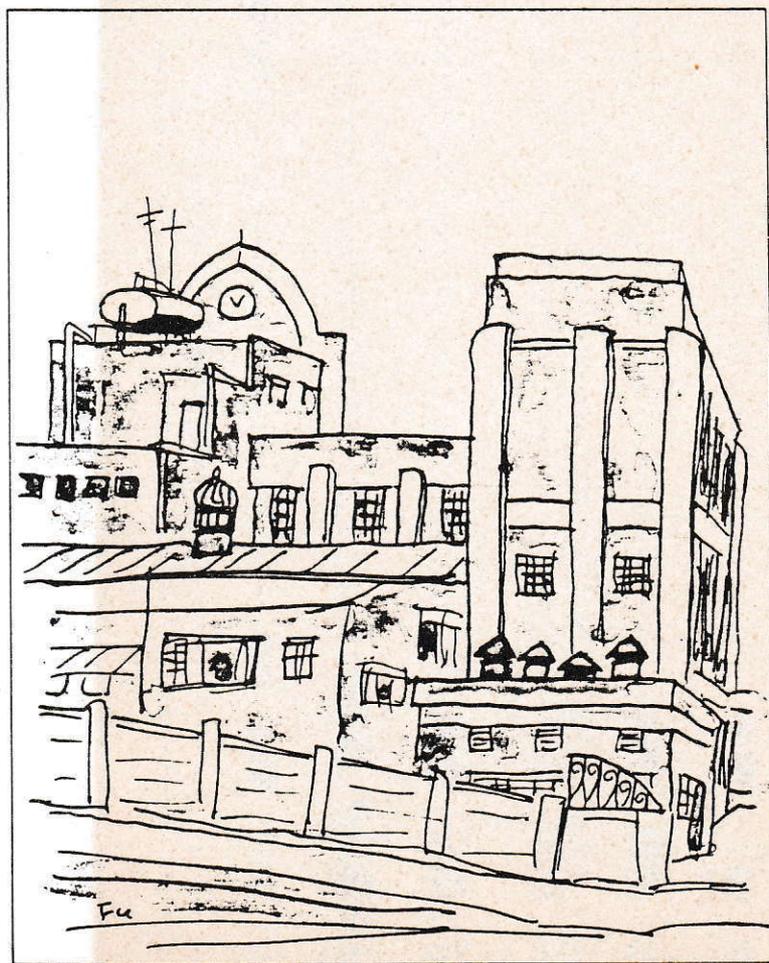
うっとうしい梅雨空が続きますが会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

さて、会報については大幅に発行が遅れ、皆様よりお叱りの言葉を頂いておりましたが、やっとできあがり、ここに配布の運びとなりました。どうぞ御熟読下さるようお願いいたします。尚、原稿を頂いた方には、感謝申し上げます。同時に、発行の遅れたことを深くお詫びいたします。

今後共OB会活動にご理解、御協力の程よろしく御願いたします。

# 開成学園排球部OB会

会報 第6号



(開成会会報 第48号より転載)

# 目次

御挨拶

幹事長 佐藤 勇 (40卒) 1

寄稿

『酒、知こ二逢へバ千鐘モ少シ』

会長 進藤 定夫 (30卒) 3

OB・部員のみなさんへ

バレー部顧問 中村博次先生 4

合宿の思い出

明渡 久和 (31卒) 5

開成バレー部の思い出

三崎 哲郎 (36卒) 6

有る時

富部 直希 (43卒) 7

排球部の思い出

後藤 享 (46卒) 9

我がO脚の思い出

老川 知永 (49卒) 10

思い出し話

小松 雅人 (52卒) 12

バレーボールと私……………関 茂和(54卒) 13

合宿に参加して……………天明 宏之(56卒) 14

開成クラブの活動報告……………OBチーム主将 野沢 和久(56卒) 15

## 現役からの声

……………高校主将 真々田浩一 18

……………中学主将 花島 佳章 19

麻布定期戦(五十七年度)……………OB戦を終えて一言…………… 20

寄せ書き…………… 23

近況報告……………返信から…………… 24

編集後記……………

## 御挨拶

幹事長 佐藤 勇 (40卒)

いよいよへ底迷を続けていたOB会を、活性化しようといついで、山本先輩に引きずられて副幹事長になりながら、何もできなかったこの2年。反省することばかりです。このたび、山本先輩が多忙のため、私が幹事長の役を引き継ぐことになりました。皆様の御協力をお願い致します。

OB会ってなんなの？と聞かれると、ハタと困ってしまいます。たぶんウマイ酒を飲むための会じゃないかな……。

旧いなつかしい仲間・先輩・後輩達と会って昔話をしながら、くみかわす酒。現役が勝つたのをダシに飲む酒。それから何年かぶりでバレーボールにさわって、気持よく汗をかき、流した汗よりも飲む量の方が多い、試合後のビール等々。会社の帰りに飲む酒・家で飲む酒とは異なった格別の味がします。

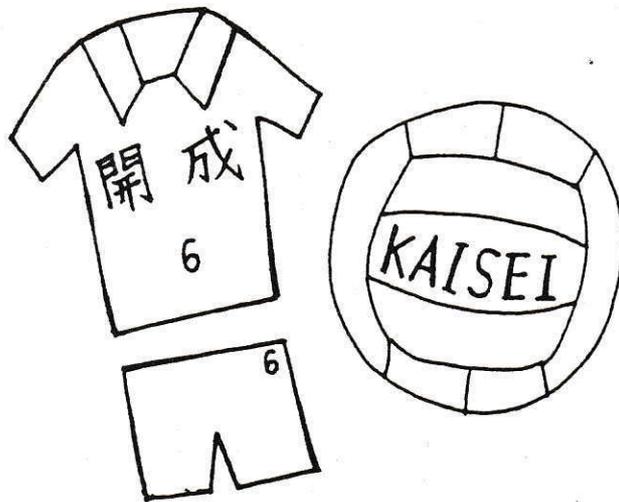


今年はこのうまい酒が、数多く飲めるよう、様々な企画を行ないたいと思っております。おおぜい集まっていたら、酒のウマさも2倍、3倍になります。ぜひふるって出かけ下さい。

寄

OB  
会  
報

稿



## 『酒、知己二逢へバ千鐘千少シ』

会長 進藤 定夫 (30卒)

一月某日、30年、31年卒の仲間が集まり、新年会を催した。上迫先生も出席され、大いに飲み、且つ語りあつた。またたく間に空の徳利がころがり、話はずきることがない。

合宿のこと、試合のこと——二十数年前のことが鮮明によみがえり、それを肴にまた盃をかさねる。

人と人とのめぐり逢いは不思議としか言いようがない。もし開成でバレーをやつていなかったら、この友を知らずに終つたらう。文字通り一つ釜の飯を分けあつた友である。

魂合える友と語れば 悪しざまに

言はるるさえも おかしかりけり と

国学者黒川真頼も歌っているが、気心の知れた友と飲む酒は一段とうまく、心にしみる。卒業以来二十数年、それぞれ違った人生を歩みながら、こんなに心許しあえる

友がいる。こうした友が身近かにいるということは幸せである。(当日の出席者 尾賀、小西、永峰、宗近(30年卒)、明渡、加藤(31年卒)、長田(32年卒) ゲスト・上迫先生)

### 追記

昨春秋、吉村先輩の後任として会長をおおせつかまりました。お引き受けはしたものの、OB会にもあまり顔を出していないかった小生に、この大任務まるかどうか悩んでいるというのが正直な心境です。今までサボつていた罪ほろぼしと考え、少しでもお役にたてればと、一生懸命務めます。

この場をおかりして、皆様方のお力添えをお願い致します次第であります。

## 「OB・部員のみならず」

バレー部顧問 中村 博次

部報発行されるにあたり一言と云われ、過去ふりかえ開成学園バレーボール部顧問として二十余年間を思うに、あつと云う間に今日まできてしまった時の早さにびつくりしています。私の手でレシーブを受けたり、怒鳴られた当時の現役だった諸君等のご息が、今はまた私の手でレシーブを同じように受けとめていると云う現象、親子二代素晴らしい姿なのだと思惑している次第です。また今年卒業したかと思うと〇〇会社へ就職しましたなど・・・一つのスポーツを通じて人と人との交わり、繋りの重さをお互に大切にしたいものだなアと思う。このことは昔も今も変わってはいないように受け止めていきます。親と子、兄弟(姉妹)、卒業生と現役、上級生と下級生、教える者と教わる者の結びつきは、すべて、ひとつのものであると云う意味をもって存在し歩みつづけ永遠のつながりとなる道だと信じています。これからも相互

の信頼と親睦を高めお互の心と技術の向上を目標にみんな努力してほしいものです。多趣味を身につけることはより良いことだが、一つのことをコツコツとしっかり充実したものに築きあげることの尊さも決して忘れてほしくない。社会人は仕事と家庭を、学生・生徒は学問を大切に。自からを粗末にしないよう一日一日を一生懸命頑張つてほしいものです。最後に開成バレー部OB会の益々の発展と卒業生諸君の健康とご多幸、ご成功を心からお祈り申し上げますと共に同期の友との横の連絡を密にとり、交流を深め、その和を大きく育てていくことを期待します。

昭和五十八年十二月十八日 記

### 追記

高校校舎、上のブランド、体育館、理科等特別室など新しくなりました。お近くに参りましたら是非お立寄り下さい。楽しみにしております。

## 合宿の思い出

明渡 久和 (31卒)

今から約二十年前、当時はまだ食糧事情が悪く、米・副食持参の参加、場所は三浦半島の水泳部の合宿所上宮田で行った。

とにかく食事の悪さ、現在では考えられない衛生の悪さ、今でもぞつとします。

練習は、午前中は近くの中学校のグラウンドで炎天下のもと基礎体操だけ、午後はバスで高校グラウンドで練習の毎日、一応勉強道具は持っていたが全々開かずキューバタンの連続、夜半になると必ず雨が降り、明日は休みかなと思うと翌朝は太陽が出て練習、一度だけ雨で一日中室内で柔軟体操を諸先輩にしごかれたこと・・・。

今日、小生の体の丈夫なのは、当時のきびしい基礎体操のおかげだと思います。現役の諸君の体をみていると、体は非常に大きいですが、基礎体操が不足している様な気がします。



## 開成バレー部の思い出

三崎 哲郎 (36卒)

昭和34、35年のことである。20年以上も昔のことなので、記憶に曖昧なところもあるのだが、当時、合宿は山中湖畔で行われていた。

着任早々の中村先生は、若さもあつて大いに張切つておられた。それまでの多少生ぬるい練習に比べたら、中村先生にしてみれば当り前のことだったのだろうが、それはひとつの革命ではあつた。その年の夏の合宿で、何の失敗だったかは忘れたが、私達の一年後輩の飯塚君が晩メシのあと合宿所の庭に全員正座をさせられることになつた。キャプテンとしての二浦君を擁する責任学年であつた私達は全員いきり立つて先生に抗議しようといふことになつた。「部員ひとりひとりを大人として扱うべきで精神棒的制裁は開成になじまない」というのが私達の主張であつたと記憶する。今思えばこの主張にしたところで幼いもののだが、私達の人はOBとして参加していた長峰先輩に訴えた。長峰さんは、こわいOBだった

が、ゆつたりとした人で、私達の抗議を聞くだけ聞くと

「まあ、中村さんにも考えがあつてやつていることで、そういきり立たずについてゆけ」といなされてしまった。

翌日からの練習も昨日に変わらず敵しいものであつたのは言うまでもない。「開成バレー部中村時代」は飯塚君達の37年卒業組から始まつたのである。



## 有る時

富部 直希 (43卒)

「マイ・ネーム・イズ・キャット。」

女は一昔前の日本で見たような背もたれのない木製の  
円椅子を両手で持ち中腰のままコンクリートの床の上を  
ガタガタと引きずりながら、私の左脇へついた。女は私  
の左手をとって腕時計を見た。ガランとした殺風景な室  
内のステージと覚しき一隅にコンポステレオが置かれ、  
デイスコミュージックが流れていた。客の一人がヒダの  
ついたクリーム色のミニスカートをはいだ十四・五の少  
女を相手にバンプを踊り始めた。

私は女に向かって「猫ちゃんね。」と意味もわからずに  
言い、女はビールをグラスに注いだ。それぞれの客に女  
がつき終ると、元現地商社マンのO氏がこの店のママと  
交渉を始め、ニコニコと言葉をかわした。話がついた  
らしく我々は女たちと店の外へ出た。南国の太陽がヤシ  
の木の木陰をつくっていた。

店の入口にはドアを囲むように配置されたイルミネー

ションが店の内装とは対称的に色とりどりに点滅してい  
た。

私と女は手をつないでミゼットの荷台（乗り込みホテ  
ル）へ向った。海岸ぞいの道路は舗装されていて間もなく  
我々が宿泊しているホテルの西端へ着いた。ホテルのシ  
ョーウィンドーぞいに、女たちとガラスの向こうに並べ  
られている商品を見やりながらホテルの玄関を通り、エ  
レベーターで団長格のM氏の部屋へ行った。

女たちは、この種のパーティには慣れていくらしく、  
キッチンからグラスを取り出し、酒とつまみを手ぎわよ  
く用意した。テーブルの上にはバラの花が置かれていた。  
半時間程酒を飲みながら片言で雑談していると、ホテル  
のボーイが警察官を二人伴って突然現われた。O氏はさ  
かんに「パティナー、パティナー」とくりかえしたが、  
ボーイは何か別のことをしゃべっているらしく、さかん  
に首を振っていた。ひとしきり問答があつた後我々は女  
たちと部屋を出されエレベーターに乗せられフロントへ  
連れていかれた。マネージャーは女たちに自分たちの名

前を書かせた。エレベーターの前のソファアに腰かけていた黒のワンピースを着た婦人が私を見て微笑をもらした。

私と女は部屋へ戻ると窓から海を見た。沖あいの島から光がもれた。O氏は現地の民謡を歌い、M氏は相馬追分を詠じた。

「汐さいの浜の岩かげに立つて

汐さいの砂に涙を捨てて

思いきり呼んでみたい 果てしない海へ

消えた僕の 若い力 呼んでみたい」

(小椋 佳・詩・曲)

どういわけか私の声はハスキーになっていた。女は花ビンから花を一輪とって私にさしだした。

「ハウオールドアーユー？」

「トウエンティトウ」

年より若く見える顔立ちをした女は、私の脇で横になり、「ギブミーティップトモロウ」

と二度言い、私の目を見つめた。その夜私は背中に女の

爪の痛みをかすかに感じながら深い眠りについた……。



## 排球部の思い出

後藤 亨(46卒)

開成を卒業してもう10余年が経った。

排球部には中一から高二迄計六年間籍を置き数知れない思い出がある。生来、怠け者なのか練習に対しては不真面目のようだった。中一のとくに入部したのはいいものの、球拾いばかりで面白くなく、一ヶ月位で排球部を止めた。中二のときに再入部したが、以後高二迄に参加した合宿の回数は五本の指で数えられるかも知れない程である。今だから書けるがサボってスキーに行った事もあった。先生・先輩にも反抗的であった様だ。練習中、先生に口答えし、殴られそうになり、コート中を逃げ回ったとき、追いかけてきた先生の振るつた竿が、他の部員に当たってしまったこともある。当時は真剣であったが、今想うと実に滑稽である。

社会に出て八年、程度の差こそあれ、このような態度はなならないようである。高校のとき、先生に「お前は、

将来、社長か乞食だ。」と言われた。最近何となくこの意味が理解出来てきた。昨日もまた上司と喧嘩してしまった。



## 我が〇脚の思い出

老川 知永（49卒）

皆さん、自分の足をよく見て下さい！  
開成バレー部〇Bの中で足が〇脚になっていない人は、  
一生懸命練習をしなかつた人です。

中学生の時、あの固いアスファルトの上で過酷な練習  
と合宿での非人間的な基礎体力を真面目にやった人は必  
ず〇脚になっているはず。私が卒業してから10年以  
上もたつておりますが、あの頃の事を思い出すと、一種  
の懐しさと共に、当時のあの悪夢のような練習風景が鮮  
明に甦ってきます。

数々の苦しい練習に耐えてきたのですが、中でも今だ  
に信じられないと思うのが、あのアスファルトの上での  
スライディンググレシープの練習です。胸からは血がにじ  
み、ひじの皮はベロンとすりむけ、ひざ当では一ヶ月と  
もたず、ヘタに勢いよく飛び込めば、アゴを強打し、血  
まみれになるといふ、今考えても大変恐ろしい思い出です。

私は、今でも当時のユニフォームを大事に保管してあり  
ます。

血がしみ込み、ボロボロになっているのを見るにつけ、  
当時を思い出し身ぶるいをしています。また、試合など  
に行つて体育館でスライディンググレシープをやると、ア  
スファルトと板の摩擦係数の差に戸惑い、すべりすぎて  
観客の中につつ込んだり、ボールに激突してしまつたと  
いう思い出は、皆様もおありになると思います。

そして、もう一つの暗い思い出は、あの中学一年の初め  
の合宿での基礎体力養成（俗に基礎トシと言われてい  
た）です。甘い言葉にのせられ入部し、遊び半分で合宿  
に参加した我々も愚かでしたが、あんなに苦しいものと  
は思つてもいませんでした。今でもその時我々をしごい  
た、当時の大学生三人の先輩の方々の名前は、一生忘れ  
られません。（ここではあえて言いませんが。今考えて  
みても、この先輩方は、サドではなかつたかと思つ位、  
きびしい指導でした。我々が上級生になつてからは、か

なりセーブする扱いになったと思いますが、あの暑い夏の日の悪夢を私は、一生忘れることはできません。

### 追伸

矢沢さんと結城さんについて。

矢沢さんには先日お会いしましたが、大変美人の奥様を娶られ、元氣にお暮らしの様子でした。結城さんには何年もお会いしていません。あの一見色男風の風貌からくり出す、合宿でのマツハの恐しさ。そして夜になると解剖と蒲布むしに奔走して、後輩をかわいがる、あのバイタリティを思い出すたびにあの頃の記憶が甦ってきます。

とにかくこのお二人は、我々の学年にとっては、兄貴のような存在であつたわけで、オーバーではありませんが、青春の思い出の中で人生の師として慕っている奴がほとんどではないのでしょうか。



## 思い出し話

小松雅人（52卒）

どうも昔のことはあまり覚えていないな。思い出しながら書く。

僕は、何故バレー部に入ったのだろうか。どうも、運動部のなかでも一番楽そつだというのが理由の一つであったようだ。実際、ランニングなどやっていると、硬式野球部などが後から凄い勢いで追い抜かしていった。手を抜いて走っていて聖学院の前へくると急に大きな声を出して一生懸命走ったりしたな。

中学の頃は、よく荒川区の大会に出たりした。区立の学校の中で、一つだけ私立の学校ということではやはり異端という感じはあったな。割と、決勝までは残ることが多かったように思う。そのときは、聴衆の応援が殆んど相手の区立側についてしまったように思う。でも、少数の女学生が応援してくれたりしてそのときはほんとに嬉しかったね。

合宿のことは、あまり思い出せないな。でも、僕自身

のために合宿をやるんだっていう意識はあったと思う。

そして、この意識は僕らの学年全員が持っていたと思う。これは、OBの側から見れば少し生意気に見えたかもしれない。今考えるとね。でも、合宿というのは、OBと現役とのぶつかり合いでつくっていくものだと思うんだ。いい意味でね。今合宿ってどうなっているのかな。

高校になった時思ったのは、ネットが高くなったなあという事。当時は、2メートル38かな。でも今はもっと高いんだろつね。これで使えるスパイカーが減ってしまった。それとやっぱり受験の重圧がだんだん大きくなってきたな。練習中にふつと明日の英語と数学の予習の事を思い出すと憂鬱になったね。そんなんで高校のときはどうやって自分のバレーボールをやるかっていう解答を見つけれなかったな。

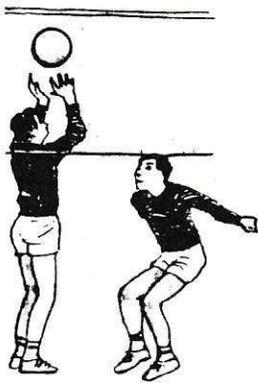
僕は、単純だからね。今、バレーボールをやつてて良かったか悪かったかというのはよくわからないな。ただやつて面白かった。それだけは言えると思う。

## バレーボールと私

関 茂和 (54卒)

卒業して既に四年以上過ぎ、僕達が高二だった頃の中一が受験の期待と不安の入りまじった年になっているのかと思うと時の流れのはやさを感じずにはいられない今日この頃ですが、そんな自分をふと見つめてみると一浪したにもかかわらず就職は目前に迫り、社会に半歩くらいは踏み出したのかなあと気づき、また複雑な気持ちになります。学生時代にやった事といえばあきもせずまたバレーでした。そして、またもキャプテンになり弱小三部ながらチームを率いることになり、その間トレパン姿の毎日で頭の中はいつも白いボールが飛んでいました。秋リーグ不振のあと五分刈りの坊主にして春の優勝を目ざしましたが、天王山であるライバル校との二試合で共に敗れ八勝二敗で二位に終わりました。一敗目はくやしきの余り仲間の前で泣いてしまいましたが一敗目は矢折れ力尽きたという感じで何も考えませんでした。

思えば小五以来十二年間スポーツといえばバレーだけで、相変わらず僕の技術は目を見はるような進歩というものを知らないかともいうようですが、中・高・大時代を通してバレーは常に僕の中で大きなものの一つであり、内面から支えてくれた軸ともいえ、やっていてよかったなあと思っています。就職後の忙しい毎日の中で、せめてベルトがお肉でかくなれない程度には身体を動かしてバレーに関わっていききたいと考え、また、カルピスの味がする、といつか聞いた恋というものをそろそろ味わってみたいものだなあとという切ない願いも抱いている最近です。

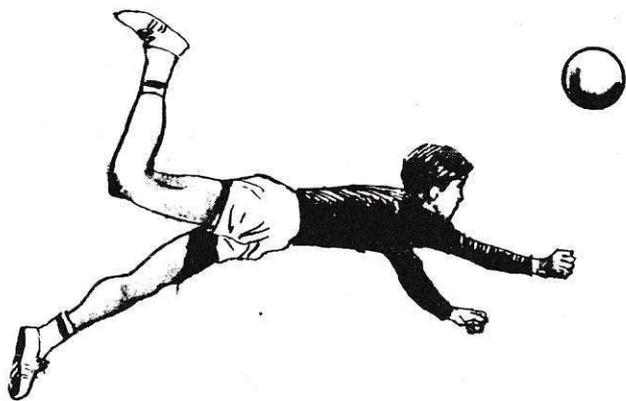


## 合宿に参加して

天明宏之（56卒）

早いもので開成を卒業してからも二年も経ってしまいました。バレーボールの持つ魅力からでしょうか大学（東工大）に入ってからバレーを続けています。決して強いとは言えませんが、高校までとはまた一味違うプレーを楽しんでいます。体育会ですので練習で忙しいのですが、先日少しばかり暇ができたので開成の合宿に二泊ほどお邪魔して来ました。高校生は身長があり大型チームと言っても良くこれだからが楽しみです、中学生では特に新一年生が個性豊かでした。それに比べてOBの負弱さといったらありませんでした。私が現役の頃はOBがゲームで負けることは減多になかったと記憶していますが、今回の合宿ではOBチームは惨敗で現役の人たちに迷惑をかけてしまいました。また合宿に参加したOBが若手ばかりであったということは、従のつながりを維持していくうえで支障を来たすことにもなり兼ねませ

るので、OBの方々はどんどん合宿に参加していただきたいと思いました。



## 開成クラブの活動報告

OBチーム主将 野沢和久(56卒)

59年度に開成クラブが出場した試合は、左記の2試合  
です。

◇6月10日(日)荒川区バレーボール大会(春期大会)

於荒川工業(南千住)

昨年この大会では、一部に登録されていましたが、  
一部で優勝したために、この年から一部に登録されること  
になりました。(もちろん負けたら2部落ちです。)

第一試合 対東叡クラブ 0-2で負け  
(上野高OB)

第二試合 対駿友会 0-2で負け  
(駿台学園OB)

※ちなみにリーグ戦負けです。

出場選手・柳田(55卒)、中村(56卒)、野沢(56卒)、

藤森(58卒)、高橋(58卒)、増田(59卒)、清水(59卒)

評 エース中村のアタックが好調、センター藤森のブ  
ロックも何本が決まりあと一歩でとれそうなセットばか

りでした。(実際に全セット12・13点で負けました。)

また、大学で全く運動をしていない柳田さんは数年ぶ  
りのセッターとは言え、絶妙なトスワークを見せ、とて  
も最年長とは思えない活躍でした。やはり、日頃から練  
習をしているチームはつながりが良く、逆に我々は、お見  
合いなども多く、体力不足も手伝って、最後のつめが甘  
かったと思います。

◇9月24日(日)クラブカップ 於北区体育館(赤羽)  
(トーナメント方式)

第一試合 対池商クラブ 2-0で快勝

第二試合 対伊藤倶楽部 0-42(15) 2で歯が立たず

出場選手・花田(55卒)、野沢(56卒)、山田(58卒)、

高橋(58卒)、清水(59卒)、増田(59卒)、

評 第一試合は、中村先生の母校、池商OBとの対戦  
でした。推定平均年齢25、26才のチームでしたが、全員  
身長が175以上あり、試合前は勝てる気がしませんでした

した。しかし、若さにもの言う(??)我がチームは、東大体育会バレー部の山田君を軸とし、予想外にボールをつなぎ、快勝しました。

第二試合は、シードチームとの対戦であり、後ほどわかったことですが、伊藤倶楽部は、昨年度の東京での5本の指にはいる程の実力であったのです。それほど大型チームではなかつたのですが、速攻ABC、そして角度大きく落ちるサーブにひっかきまわされ、我がチームの良い面も出せないまま、惨敗してしまいました。また、荒川の大会と違ってネットの高さが243cmであつたことも災いしたようです。(我々が現役の時238cmであり、花田さんの時代は235cmでした。大学でサークルを行なっている野沢や、清水君、増田君も、日頃238cmのネットで練習しています。)

◇一年通して  
この2つの大会の他に2つの大会に申し込んだのですが、人数が集まらず、出場できませんでした。その責任

は全て連絡係であつた私にあるのですが、大体の傾向として、大学でバレーボールをやっていない人は、あまり参加したがないようです。この点から見ると、バレー活動を特にしてない、高橋君そして柳田さん、藤森君には頭が下がる思いです。社会人の方にも出場していただきたのですが、お仕事が忙しくせつかくの休日をだれ無しにしてはと思いがちでした。そのため昨年は特定の方しか連絡しなかつたのです。しかし、この2年間主将として、色々な大会へ出てみますと、高校出たての若い人から30を越えたようなオジサン(失礼ですが)まで本当にバレーを楽しんでやっています。それは高校時代の勝つためのバレーではなく、やるための、楽しむためのバレーです。大学に入ってまでバレーをしている人は、もちろんのことですが、毎回試合に参加してくれる、いや参加する人たちは、少なくとも、バレーがやりたいから、早い返事をしてくれるのだと思います。ですから、6人でひとつのボールを追うあの気持ちが忘れられない

方は、どんどん参加して下さいようお願いします。しかし、連絡不徹底では困るので、できるなら、電話による連絡ではなく、会報や葉書きによるものにしていただけたら幸いです。(電話での連絡は時間がかかるばかりでなく、本人がいない場合は、ほとんど良い返事をもらえません。)

また、今年も私が、主将をやらせて頂きますが、卒論就職活動、その他全く自分勝手な理由で、開成クラブに對して、十分尽くせないと思いますが、みなさんの協力(「協力」と言うのも少しおかしいですね)があれば心強い次第です。「開成クラブここにあり」とバレー界にアピールできれば、と今では考えています。



## 現役からの声

高校主将 真々田 浩一

関東大会もインターハイも2回戦で負けてしまった。

どこから一セット目をとりながら、2セット目を取られ、3セット目もリードしていながら逆転されて負けてしまふといったパターンだった。運動会や旅行などで練習が思うようにできなかつたこともあるが、なんともおそまつな試合だった。基本のレシーブやサーブカットがほとんど出来ていないのに速攻や時間差などをやって完全に自分たちのものにならないままに試合に臨んだのがいけなかつた。今、考えてみればレシーブフォームもちゃんとして出来ていない者がほとんどで、まったく何を練習して来たんだらうかと、つくづくキャプテンとしての力のなさを感してしまふ。それでなんとか合宿までには基本だけでも出来ているようにしたい。

高一にとつての最後の試合である新人戦まで残りわずかに四カ月ほどである。自分は中一の五月からこのバシ

一部に入部したのであるが、それにしてもつくづく時のたつ早さに驚いてしまふ。このままでいつたら残りの四カ月もあつという間に過ぎてしまふのではないだろうか。後から振り返ってみて自分でもよくやつたと思えるような四カ月にしたいし、先輩の方々に恥ずかしくない成績を残したいと思つている。

まったくへたな文章でしたが、何か感じるものがありませんでしたら、是非我々の練習を見に来てください。今ばかりはこのバレー部に入つてよかったと思つているし、後になって、もっとよかったと感じるようにならばいいです。

(真々田君は現在、OBです。59卒)

中学主将 花島 佳章

中学バレー部は、現在部員数が27名、しかし、普段の練習に出てくるのは、およそその半分位です。でも、一週間の練習日、火・木・土曜日のうち、木曜日だけは外のグラウンドで中学生だけで練習するとあって、かなり多くの者が練習に出てきます。これはいけない風習であるので、何とかしてもっと自分から練習に参加してもらいたいと思っています。

ところで、今の中3が今の高1の先輩から引きついたあとの試合の成績といえは——よかつたものは、公式戦春の大会の荒川区予戦で決勝リーグに残った位なもので、しかしその決勝リーグでの成績も、散々なものでした。

現在は、夏合宿に向けて練習のまつ最中ですが、この夏合宿の後はすぐに私学祭があるので、是非ともよい成績を残したいと思っています。それに、夏休みが終われば、五校リーグや文化祭での試合があるので、それらにおいてよい成績を残したいと思っています。

また、今年の中2はなかなか層が厚く、攻撃力などでもずい分強いので、今年の10月の末にある新入戦の大会には、かなり期待が出来そうです。



## 麻布定期戦

昭和57年12月19日(日) 於開成学園体育館

### ◇戦績

中学 開成 0  
 $\begin{array}{c} 106 \\ | \\ 1515 \end{array}$   
 2 麻布

高校 開成 0  
 $\begin{array}{c} 88 \\ | \\ 1515 \end{array}$   
 2 麻布

OB 開成 2  
 $\begin{array}{c} 151215 \\ | \\ 111510 \end{array}$   
 1 麻布

(9超OB  
 人制) 開成 2  
 $\begin{array}{c} 212113 \\ | \\ 191821 \end{array}$   
 1 麻布

### ◇OB戦を終えて一言

今日は久しぶりにバレーボールをやり、開成時代の生活を思い出しております。普段は仕事におわれ、運動は手軽にできる水泳をもっぱらやっております。

小田木 (36卒)

バレーボールで汗を流したのは20年ぶり位でしょうか。非常に壮快な気持です。時間を見ては出来る限り、顔を出す様にしたいと思います。

飯塚 (37卒)

小便ちびる様な緊張感に包まれた真剣勝負をしたい。

野口 (53卒)

何とか年をとるまいとママさんバレーのコーチを続けていますが、今日はその成果が出て満足しています。将来はシニア戦になっても出られるよう頑張ろうと思います

から、この定期戦が長く続くよう期待します。

芥川 (38卒)

久しぶりに、プレーを見て若返ったような気がします。

次回からは非プレーしてみようかなあ！と思っています。

尾賀 (30卒)

最近、体重は変わらないのにスボンがきつくなり始め、あわててシェイプアップにと会社でバレーをやり出しました。開成のバレー部はしばらく御無沙汰していて、久しぶりに来ましたが、楽しませていただきました。

海老沢 (50卒)

久しぶりに運動すると、次の日が心配ですが、少ない機会のバレーはなるべく出て来たいと思います。

花田 (55卒)

久しぶりにOB会の集まりに顔を出し、なつかしい人と話す機会を得て感激しました。今後ともOB会の一員として積極的に参加していきたいと思っています。

柏女 (49卒)

現役の時より10kgほど太り、OB会に顔を出すのがはげずかしかつたのですが、矢沢先輩(48卒)を見て、安心すると同時に5年後の自分を想像し、こわくなりました。

興村 (54卒)

同僚の大半の予想と期待を裏切ってワコールをけつて三菱電機に入ってしまった。酒池肉林を棒に振つたので、これからは仕事の鬼になるつもりです。

吉川 (53卒)

10年振りで開成に来たので現役の顔もわからず、OBの方々の顔もほとんどわからず、やはり今までOB会に顔

を売っておかなかつたのがアダになっています。今年、  
会計士2次試験によく受かりましたので、会計の御  
相談は我が法人へどうぞ。

松田（47卒）

横浜に来てそろそろ10年になります。一時は会社でバレ  
ー部を作つてやっていたんですが、もう引退。横浜も移る  
のではないかと思います。時々バレエもやりたくなりま  
す。そろそろ子供達にも教えようと思つています。

鈴木（39卒）

最近では体重が大幅増となり、動きの悪さが、いよいよ目  
立ちましたが、超OB戦では何とか出来るので、超O  
B戦を今後とも是非続けて欲しいと思います。バレエが  
できる仲間がいるという事は、非常に嬉しい事です。来年  
も、必ず開成・麻布定期戦に参加したいと思つています。そ  
の時は、他の45年卒の連中も声をかけたいと思つています。



初めて開成の体育館に入りました。屋外でしかプレーで  
きなかつた頃とくらべてうらやましい気がします。自分  
のプレーは初めてボールにさわると同じでスミマセン。

西山（41卒）

竹内（45卒）



## 59年11月頃(OB総会の通知)の返信から

●11月13日は出張のため、また12月1日は榎御立会のため、出席できません。年末はどうしてもいそがしいので、このような催しは、夏季にしたらいかがでしょうか。

松田信彦 (47卒)

●12月半ばまで卒業試験になるので、残念ですが出席できません。12月16日は、試験日程によつては、行けるかもしれませんが、中村先生、並びに諸先輩方によろしくお伝え下さい。

興村義孝 (54卒)

●すつかりごぶさたしています。来春二世誕生の予定です。当日、出席できませんが皆様によろしくお伝え下さい。

加藤雅之 (48卒)

●浪人中、最後の追い込み、がんばりたいと思います。

津野博明 (59卒)

●御無沙汰しております。現在なんとノ安田火災バレー部のキャプテンをやっております。この前、新宿区民大会で、一回戦で4点しか取れず、五分で敗退しました。私の実力と相応の戦績ですね。

保条友宏 (49卒)

●今春NECに入社し、現在自動車電話関係の仕事をしています。

橋本和弥 (53卒)

●12/1は大阪で友人の結婚式のため欠席します。本人の結婚式は、まだ目途がたたず、困ったものです。中村先生にお会いしたかったのですが、申し訳ありません。よろしくお伝え下さい。

宮崎直樹 (39卒)

●二月に結婚します。同期としては、岡・羽井佐に続いて三人目です。公私とも、多忙な毎日です。

野口恭司 (53卒)

●娘(一才半)が落書きを葉書にしてみました。いつものまにやら、小生も一兎の父親。仕事はきびしくなる一方、体力は落ちるだけの今日このごろです。

山本恵一 (45卒)

●大学院での研究生生活が忙しくて、出席できません。申し分けありません。干葉に閉じこもっているといったところ。封筒もきちんとしたものになり驚きました。ご苦労様でした。

井手本康 (54卒)

●昨年まで入っていた会社のバレー部も今年は引退し、運動不足に悩んでいます。開成のバレーも思い出したいのですが、とにかく遠くて、後輩諸君の奮闘に期待します。

丹治雅行 (49卒)

●残念ながらバレーから全く離れていますが、三十路を前にして春夏はサッカー、秋冬はラグビーと、関西を走りまわっています。

市村幹司郎 (50卒)

●セツルメントという小学生相手のサークル活動を行っており、一週間ほとんど毎日サークルをやっています。

松本弘 (58卒)

●一年半の木更津住いですが、現在腰痛に悩まされて鍼灸と色々やっていますが良くなりません。良い方法が

あつたら教えてください。

芥川修 (38卒)

●今年はずいに二児の父となり、会社でこき使われ、家で子供にふりまわされて忙しい毎日です。

萩野文夫 (49卒)

●返事が遅れてたいへんすみません。社会人一年生。毎日がついても疲れています。どうすれば子供たちが言うことを聞くか毎日考えているしだいです。

熊谷達範 (54卒)

●現在、光通信用LSIの開発に従事しています。忙しさは相変わらずですが、月に二回程は、職場の仲間とバレーボールを楽しんでいます。

清水淳一 (49卒)

●会社の水にもようやく慣れてきたところです。最近、昼休みに3km程走ったりもしています。

島川誠一郎 (51卒)

●今年九月末まで前勤めていた会社を退職しました。来年一月より上記会社(ファルマシア・ジャパン)に入社が決まっています。

木村誠一 (49卒)

●今年の六月よりイラク勤務になり二年間海外です。

吉川明夫 (53卒)

●東京医科歯科大胸部外科に在籍、現在山梨医大の麻酔科助手として研修中。

吉田哲夫 (53卒)

●来春いよいよ卒業して、熊谷組に入社することになりました。現在は卒論におわれております。いつも欠席で申し訳ありません。

高浪孝勝 (55卒)

●長かった学生時代も終え、社会人になって半年が過ぎました。あまりに現実的な生活に飽き飽きしております。バレー部の今後益々の発展を祈っております。

川田兼司 (53卒)

●富士フィルム株式会社に入社致しました。

鈴木章弘 (56卒)

●長い間御無沙汰しております。今年七月からダム建設の調査でインドネシアに行っていたのですが、交通事故に会い、手術を受けに日本に戻りました。大部回復はしてきましたが、顔面骨折なので、まづい顔がますます…



鹿江一郎 (43卒)

●二月より約一年の予定で清水の病院に出張中です。本年東京に帰りましたら、よろしく。

中山一 (49卒)

●御無沙汰しております。大学院での研究生生活も早六年目。御多分漏れず、就職難であります。女房供々元気でやっております。来春には一児の父になりそうです。

石塚伸一 (49卒)

### 59年12月頃(麻布定期戦の通知)の返信から

●昨年より、墨田区バレーボール連盟に加入し、(地域のクラブチームを結成)六人制、九人制の両方をこなしております。

青木秀夫 (49卒)

●教員一年目で学級担任をもたされ、毎日忙しい日々をすごしております。学生時代のようにゆつくりものを考えたいと思っております。女子バレーの顧問をしてありますが、女子はやっぱりむずかしいですネ。先日の新入戦では男子バレー部は開成中とあたり負けたそうです。

熊谷達範 (54卒)

12/5(水)は、カゼと腰痛のため、また、午後補講(ゼミ)があり、お手伝いできなくて申し分けありませんでした。次回は働きますので、よろしくお願いします。

中村智博 (56卒)

●中村先生には以前お世話になりました。私自身、中体連のバレー部の方がいそがしくて開成の方は御無沙汰しており、幹事の方々は御迷惑をかけていると心苦しく思っています。これからもがんばってください。

菊地正直

●西肩に住職の責任小さいながらも一ヶ寺の責任者としてのプレッシャーをひしひしと感じつつ緊重した日々をおくっております。尚、会報の件強い味方(松原・49卒)と共に頑張ります。

矢沢俊彦 (48卒)

●会計士二次試験受験のため日曜日は専門学校へ通学しておりますので、誠に申し訳ありませんが欠席させていただきます。

松田信彦 (47卒)

●この度は出席できず、申し訳けなくまた残念に思っております。11月25日に、カジュアルレストラン「ボンテ」の、飯田橋駅ビル店をオープンし、多忙をきわめております。

老川 功明 (52 卒)

●S 59 年春より清水にきています。こちらはあたたかくて気候は最高です。最近病院ではマラソンブームで11月に10 Kmほど走りました。みなさんもいかがですか。

中山 一 (49 卒)

●現在、卒業試験のためOB総会に出席できませんで申し訳ありませんでした。試験が2月16日まで続きますので、1月20日も欠席させていただきます。無事に卒業できるとか、きわどい戦いを日々繰り返しております。

興村 義孝 (54 卒)

●バイクと車と事故を起こし、両足が打撲のため痛みます。申し分けありませんが欠席させていただきます。

井手本 康 (54 卒)

●合宿には良く参加させてもらうのですが、年末のOB総会や麻布定期戦はまだ出席してあらず、大変申し分ありません。毎日技術関係(機械設計)の仕事に追われています。

杉山 伸郎 (50 卒)

●六年間やっていた外科(臨床)をやめて基礎医学(生理学)をやっています。

田村 謙一 (46 卒)

●残念ながら、バレーボールはやっておりません。毎日サークルに忙しく、ろくに勉強してありません。でも元気にやっております。

松本 弘 (58 卒)

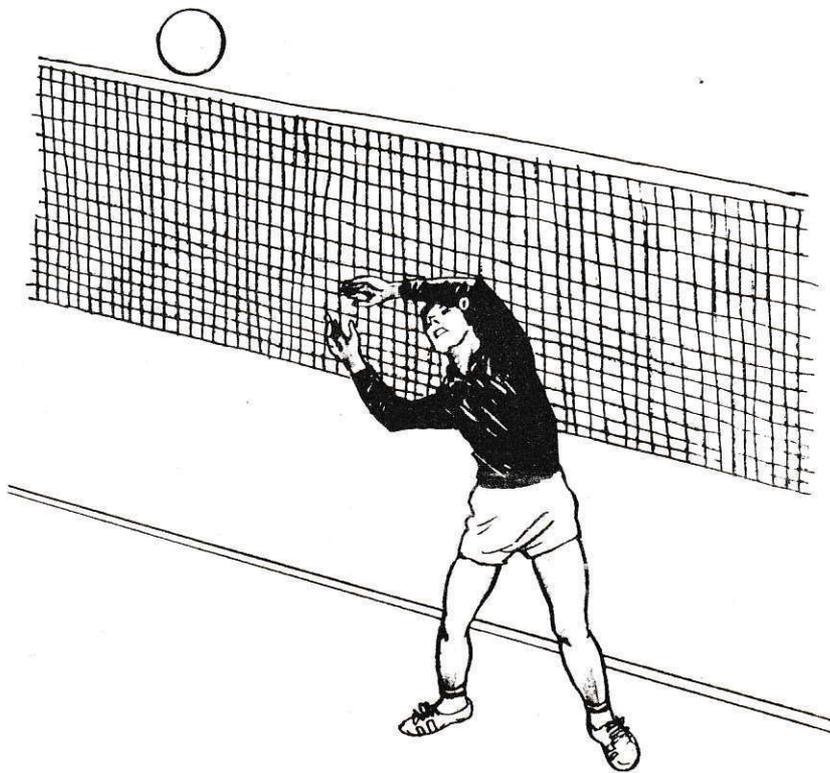
●現在会社のラグビー班主将をしております。当日も試合の予定あり。残念ですが皆様のご健闘をお祈りいたします。

市村幹司郎 (50卒)

●仙台ですごしてきた五年間をふりかえり、残り一年あまりとなつてしまった学生生活をいままでの総決算とすべく、どうすごそうかと考えているこのごろです。私のクラブ仲間も今年、来年と大学卒業が続き、学生は私人になつてしまいますが、学生の間には、こころしばらく遠ざかっている合宿にぜひとも参加したいと思ひます。

島田 (52卒)

(57年12月のお手紙より)



## 編集後記

ようやく会報を出すことができました。原稿をいただいた諸先輩には、発行が遅れましたことを深くお詫び申し上げます。

は、同時に迷いがあるのも事実です。

ところで、我が開成バレー部も発足してから三十八年を数えるようになりました。そして今年もまた、バレー部は新入生を迎え、OB会は新卒業生を仲間に加え、新たな年輪を刻もうとしています。コートの中で、汗濁になつてボールを一心に追い続けたあの時代を懐かしく思うのは、年のせいでしょうか。あの頃は何かとつまらないことに動揺しがちでしたが、それでもいざ練習をはじめると何もかも忘れてしまったようです。何を悩んでいたのが今ではほとんど覚えていません。それから十年以上たった今は、少し大人になつたのかもしれないが、本質的には同じようなことをしているような気がします。ボールを追いかけるかわりに、それぞれの思う道を追い続けている、といったら大袈裟でしょうか。またそこに

先輩にお会すると、ついつい甘えたくなります。同輩と飲めば、またバレーがしたくなります。後輩諸君の顔を見ると、時の流れを感じます。また、お懐しい顔と声とに、OB会を通して、お会いできることを願っています。先輩諸兄、後輩諸君の御健康、御活躍を祈って、会報を終えることにします。

(T・Y、H・M)

\* 編 集

矢 沢 俊 彦 (48卒)

松 原 秀 彰 (49卒)